

喜多方市立小中学校適正規模適正配置
保護者・地域意見交換会結果報告書

喜多方市教育委員会

I 保護者意見交換会

1 目的

小中学校適正規模適正配置に係る基本方針及び実施計画策定の参考とするために、子どもたちにとって望ましい学習環境や将来の小中学校の在り方等について、小中学生や未就学児の保護者の考え、意見等を把握することを目的として実施した。

2 期間

平成30年7月25日（水）～8月2日（木）（中学校区ごとに計7回開催）

3 実施方法

保護者意見交換会の実施にあたっては、事前に各小中学校において、PTAの会合など多くの保護者が参集する機会に、保護者による話し合いの場を設けて保護者の意見を取りまとめ、各校の保護者の代表者にそれら意見を持ち寄っていただき、さらに未就学児の保護者の参加も呼びかけて、7つの中学校区ごとに意見交換会を実施した。

4 日程及び会場等

日 時	会 場	対 象 学 区
7月25日(水)19:00～	高郷小学校ランチルーム	高郷中学校区（2校）
7月26日(木)19:00～	第一小学校会議室	第二中学校区（4校）
7月27日(金)19:00～	会北中学校会議室	会北中学校区（3校）
7月30日(月)19:00～	塩川中学校プレイホール	塩川中学校区（5校）
7月31日(火)19:00～	第二小学校会議室	第一中学校区（4校）
8月1日(水)19:00～	山都中学校多目的ホール	山都中学校区（2校）
8月2日(木)19:00～	関柴小学校会議室	第三中学校区（4校）

5 出席した教育委員会事務局職員

教育長	大 場 健 哉
教育部長	江 花 一 治
教育部参事	佐 藤 健 志
学校教育課長	坂 口 伸
学校教育課主幹兼管理主事	五十嵐 博 也
学校教育課主幹・指導主事	武 藤 幸 意
学校教育課長補佐・指導主事	佐 藤 毅
学校教育課長補佐・指導主事	中 村 豊 子
学校教育課長補佐	瓜 生 昭 彦

6 参加者

(単位：人)

区分	参加者数	内 訳				
		小学校 保護者	中学校 保護者	未就学児 保護者	教職員	教育委員
高郷中学校区	11	3	2	1	3	2
第二中学校区	15	7	2	1	5	
会北中学校区	13	3	1	3	6	
塩川中学校区	12	5	1	0	5	1
第一中学校区	10	5	2	0	3	
山都中学校区	11	1	5	0	4	1
第三中学校区	19	10	3	1	5	
合計	91	34	16	6	31	4

※「小学校保護者」、「中学校保護者」の数は、各校PTA代表者の出席数である。

※教育委員の人数は、延べ人数である。

7 総括

保護者意見交換会では、望ましい学習環境や将来の小中学校の在り方等について、小中学生や未就学児の保護者の立場から意見が出された。総括すると、「(1)少人数教育の充実と現状の維持」「(2)新たな学校スタイル」「(3)子どもの意見の尊重」「(4)地域との関わり」「(5)部活動の多様性」「(6)その他」に大別することができた。

それぞれの代表的な意見を整理すると、次のとおりである。

(1) 少人数教育の充実と現状の維持

- ① 今のままでできることはないのか。例えば、体育の時間は他の学年と一緒にやるとか、学年で、1～2人しかいない時は、その学年は初めから別の学校に行くとかの方法を考えてほしい。
- ② 自分が学んだ学び舎がなくなるのは寂しい。地域の人たちに意見を聞いて、はたして意見がまとまるのか。大人数の中での競争心は必要だが、その分、いじめも心配である。
- ③ 小規模校で、いろいろな経験をさせてもらっている。生徒会やピアノ伴奏などで一人一人が活躍できる場があるが、一方では、いろいろな役割が一人に集中してしまう課題もある。

(2) 新たな学校スタイル

- ① 西会津町で行った統廃合はよかったと思う。大規模な統合も検討すべきである。
- ② 大規模な統合も検討すべき。義務教育学校も検討してほしい。
- ③ こども園から中学校まで一つの建物の学校ができるとよい。
- ④ 親の立場としては、幼小中一貫であれば楽に感じる。子どもたちも活動の幅が広がると思う。

(3) 子どもの意見の尊重

- ① 適正規模適正配置について大人だけで話し合っている。この問題は子どもに判断はできないと思う。まずは、お互いが他の学校との交流学習を体験し、その後、子どもの意見を募ってみ

てはどうかと思う。

- ② 地域の保護者、大人ばかりで考えるのではなく、子どもたちが影響を受けるので、子どもたちの意見を取り上げるべきである。
- ③ 子どもの意見も聞きたい。特に、中学校の部活動の事もあるので、入りたい部活動などを聞いてみてはどうかと思う。自分の考えだけでは、どうしたらよいか分からない。
- ④ 子どもの目線で、子どもを交えて、子どもの意見を吸い上げてほしい。

(4) 地域との関わり

- ① 子どもが関わって地域行事が成り立っている事が多い。学校がなくなると、行事に参加できるのか不安である。
- ② 学校が無くなると、祭りや運動会、あいさつ運動などの地域との触れ合いがなくなるのが寂しい。
- ③ 平成15年頃は児童数が600~700人いたが、現在は370人程度である。市街地でも行政区によっては、子供会育成会が存続できないようなところもでてきている。いろいろな活動に支障をきたしている。
- ④ 堂島小学校は地域との密着度が高いので、今の体制がベスト。もし学校がなくなったらコミュニティがなくなるのが心配である。
- ⑤ 地域の学校がなくなるのは、誰もがいやなことだ。しかし、そうせざるを得ない状況にある。はっきり言って、どちらがいいか分からない。

(5) 部活動の多様性

- ① 第三中学校では廃部になった部活動もある。部活動の選択肢が少なく、子どもたちがやりたいものが見つけられない。部活動のために他の学校に通っている子どももいる。学校の枠を越えて部活動のチーム編成ができるようにしてほしい。
- ② 小さい学校は、部活動が増えない。子どもたちにとってメリットがない。自分のやりたい部活動がないという声も聞く。
- ③ みんなで活動する文化部や運動部を大切にしたいが、生徒数が少なくて、それらの部活動ができなくなっている。
- ④ 小中9年間で学ぶことも考えられる。5、6年生から部活に参加することも考えられる。

(6) その他

- ① 学区を再編し、大規模校から小規模校に通うことも検討してみてはどうか。
- ② 学区を取り払い、自由に大規模、小規模校を選べるようにしてほしい。子どもの教育環境を保護者が選べるようにしてほしい。
- ③ 取組みにスピード感がない。意見を聞くのもよいが、行政主導で行ってもよいのではないかなと思う。
- ④ 小さい学校なりのよさがある。しかし「こうなりました。」と決めてもらえれば、そうするしかないなので、それに従う。

- ⑤ 子どもの小学校入学と同時に実家に戻ろうと考えている人も多いと思う。しかし、地元に小学校が無かったら地元に戻るとは思えない。
- ⑥ 大規模校、小規模校それぞれにメリット、デメリットがあつて決められないが、学校がなくなるのは寂しい。

II 地域意見交換会

1 目的

小中学校適正規模適正配置に係る基本方針及び実施計画策定の参考とするために、子どもたちにとって望ましい学習環境や将来の小中学校の在り方等について、市内小学校区ごとの地域住民の考え、意見等を把握することを目的として実施した。

2 期間

平成30年8月6日(月)～8月30日(木) (小学校区ごとに計16回開催)

3 実施方法

地域意見交換会は、全ての小学校区ごとの地域住民を対象に、全17小学校区で実施することとした。実施にあたり、各行政区長には直接文書にて案内するとともに、案内文書の全戸回覧、市ホームページへの掲載等により、地域住民に対し参加を呼びかけた。

なお、熱塩小学校区、加納小学校区は同時開催としたため、計16回の地域意見交換会を実施した。

4 日程及び会場等

日 時	会 場	対 象 学 区
8月6日(月)19:00～	高郷総合支所	高郷小学校区
8月7日(火)19:00～	山都開発センター	山都小学校区
8月8日(水)19:00～	熱塩加納会館	熱塩・加納小学校区
8月9日(木)19:00～	松山公民館	松山小学校区
8月10日(金)19:00～	堂島地区公民館	堂島小学校区
8月16日(木)19:00～	塩川公民館	塩川小学校区
8月17日(金)19:00～	慶徳ふれあい館	慶徳小学校区
8月20日(月)19:00～	駒形地区公民館	駒形小学校区
8月21日(火)19:00～	厚生会館	第一小学校区
8月22日(水)19:00～	市役所大会議室	第二小学校区
8月23日(木)19:00～	姥堂地区公民館	姥堂小学校区
8月24日(金)19:00～	上三宮遊樹館	上三宮小学校区
8月27日(月)19:00～	岩月交遊館	第三小学校区
8月28日(火)19:00～	熊倉公民館	熊倉小学校区
8月29日(水)19:00～	関柴公民館	関柴小学校区
8月30日(木)19:00～	豊川公民館	豊川小学校区

5 出席した教育委員会事務局職員(2班に分けて出席)

教育長	大 場 健 哉
教育部長	江 花 一 治
教育部参事	佐 藤 健 志
学校教育課長	坂 口 伸
学校教育課主幹兼管理主事	五十嵐 博 也

学校教育課主幹・指導主事
 学校教育課長補佐・指導主事
 学校教育課長補佐・指導主事
 学校教育課長補佐

武 藤 幸 意
 佐 藤 毅
 中 村 豊 子
 瓜 生 昭 彦

6 参加者

(単位:人)

区分	参加者数	内訳					
		地域住民	未就学保護者	小学校保護者	中学校保護者	学校関係者等	教育委員
高郷総合支所	13	11					2
山都開発センター	5	3					2
熱塩加納会館	8	7					1
松山公民館	9	7	1				1
堂島地区公民館	6	5	1				
塩川公民館	3	2					1
慶徳ふれあい館	4	3			1		
駒形地区公民館	3	2		1			
厚生会館	3	3					
市役所大会議室	3	2		1			
姥堂地区公民館	8	7				1	
上三宮遊樹館	5	4				1	
岩月交遊館	5	4		1			
熊倉公民館	9	9					
関柴公民館	4	4					
豊川公民館	7	7					
合計	95	80	2	3	1	2	7

※教育委員の人数は、延べ人数である。

7 総括

地域意見交換会では、望ましい学習環境や将来の小中学校の在り方について、地域住民として、地域と学校の関係を中心とした意見が多く出された。総括すると、「(1)地域と学校の在り方」「(2)少人数教育の充実と現状の維持」「(3)小中一貫教育の実施」「(4)部活動の多様性」「(5)学区の見直し」「(6)その他」に大別することができた。

それぞれの代表的な意見を整理すると、次のとおりである。

(1) 地域と学校の在り方

- ① 松山町の多くの児童が第一小学校に通っている。松山町のまちづくりを進める上では、同じ学校で学んでほしい。
- ② 10年後、20年後の地域のあり方を考えて、保護者の意見を大きく取り上げてほしい。
- ③ 地区住民としては、学校があって地域があると思っているので、残してほしい。学区外通学が許可されたとはいえ、他校に通うようになったことで、地域に子どもが少なくなっている。
- ④ 岩月は統合してから何年もたっていないので、このままでもよいと思っている。

- ⑤ 地区に学区が2つあってはやりにくい。
- ⑥ 大切なのは、地域のコミュニティだと思う。今後しばらくは、児童数がそれほど変わらないのであれば、現状を維持していただき、その中で教育効果を高めていただきたい。

(2) 少人数教育の充実と現状の維持

- ① 自分は、複式学級で学んできて、特に問題はなかったもので、少人数でよいのではないかと思う。
- ② 人間の教育は、競争だけではなく、一人一人の特性を伸ばすこと。少人数のほうが、いい面がたくさんある。
- ③ 人数が少ない方が、より優秀な子が育つということもある。

(3) 小中一貫教育の実施

- ① 会北中学校区は、小学校を1校にし、地域が維持できるような環境を作り出していくべきではないか。幼小中一貫教育が良いと思う。
- ② この現状では、統合は必須だと思う。中学校に小学校の併設が良いと思う。統合しても、自分が住んでいる地域に誇りを持てるようにしたい。
- ③ 学校間のネットワーキング(ネットワークにより互いに連絡し合うこと)を進め、地域との関わり、学校間との関わりを進める。

(4) 部活動の多様性

- ① 地域の学校はそのまま、サッカー部や剣道部などの部活動を市全体で行うことができるかどうか考えるべきである。また、教職員の多忙化解消と併せて考えることが大切である。
- ② それぞれの中学校ごとに、1つの部活動を強化するなど、部活動に特色をもたせる考え方もいいのではないかと思う。
- ③ 統合するなら、部活動の指導者として地域の人材を活用するなど、地域との関わりを積極的にすすめてほしい。部活動などでも他の学校と合同で活動していくのもよいのではないかと思う。

(5) 学区の見直し

- ① 統廃合に賛成。中学校は将来を見据えて広い地区で考え、計画が遅くならないようにしてほしい。
- ② 加納小学校と熱塩小学校が一緒になるのがよいと考える。これから何年間後かに、また同じ問題になるのであれば、もっと広い範囲での統合も考える必要があると思う。
- ③ 塩川小学校の児童の一部を堂島小学校、姥堂小学校、駒形小学校それぞれの小学校に振り分けてはどうか。学区をもとに戻すという考えもある。

(6) その他

- ① 障がいを持つ児童生徒が通常の学校の児童生徒とふれ合ったり、交流したりすることも、これからの学校の在り方の1つであると考えます。
- ② 山都町には耶麻農業高校があるなど、地域には農業について連携できる組織がある。学校教育について、地域をあげて協力していくことが大切であると考えます。

- ③ ある町では、小学校をこの地域に置くから、こども園は別の地域に置くといったギブアンドテイクをしていると聞く。ここもそのようなことを考えてはどうか。